

市政
トピックス

地域の記憶をつなぐー
「震災遺構 仙台市荒浜地区住宅基礎」

東日本大震災前、約8000世帯・22000人の方々が暮らしていた若林区荒浜地区は、津波により多くの方が犠牲となり、家屋のほとんどが流出するなどの甚大な被害を受けました。

市では、震災の記憶と経験、地域の思いを未来へつないでいくため、津波により被害を受けた荒浜地区の住宅跡を「震災遺構 仙台市荒浜地区住宅基礎」として8月2日に公開。市の震災遺構は、平

成29年4月に公開した「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」に続き2件目となります。

震災遺構では、津波により破壊された住宅跡や、むき出しになった配管、浸食された地形などを、ありのままの姿で公開。また、被災後の状況などを伝える写真や、人々の証言を掲載した説明看板を設置し、津波の脅威に加えて、荒浜の歴史や、震災前の人々の生活の様子も、より深く感じ取ることができるようになっています。

公開記念式典には、市の関係者のほか、当時荒浜地区にお住まいであった方々も出席。震災遺構となった自宅跡を見つめながら、かつての懐かしい思い出を語り、地域の記憶が未来につながっていくことを祈っていました。



▲破壊された住宅跡。見学用の通路が設置され、津波の威力を間近で感じることができます。奥に見えるのは同じく震災遺構の荒浜小学校

市政
トピックス

地元食材でおもてなしー東北の魅力発信拠点オープン

食をはじめとした東北の魅力を発信するカフェ・レストラン「Route 227's Cafe」



▲ずんだやいぶりがっこ等、東北の特産物を用いた、ご当地コッペパンのテイクアウトもできます(営業時間11:00~23:00)

が勾当台公園内にオープンしました。名前の由来は、東北6県の自治体数である227。東北の玄関口である仙台から各地をつなぐ道(ルート)となり、さまざまな魅力を発信していくという意味を込めて名付けました。店内では、東北各地の食材を活用した料理を提供し、テラス席では定禅寺通のケヤキ並木を楽しみながら食事をすることもできます。

8月3日のオープニングイベントでは、東北の生産者が農産物等の直接販売を行う「ファーマーズマーケット」や東北各地のワイナリーによるワイン販売、こけしの絵付け体験などが行われ、多くの人でにぎわいました。

今後は、東北に関連したイベントやワークショップ等も定期的に開催予定。東北各地と連携しながら、東北全体の交流人口の拡大や活性化を目指します。

市政
トピックス

株式上場を応援ー「仙台未来創造企業」が決定

おおむね5年以内に株式上場を目指す地元の中企業8社を「仙台未来創造企業」に認定しました。この制度は、平成26年以來となる地元企業の株式上場に向けて、集中的に支援を行い、地域経済をけん引する企業の創出を目指すもの。認定を受けると、市や専門家による相談・助言等の支援が受けられます。

7月29日に行われた認定証交付式では、認定企業から「株式上場は通過点。上場後もさらに躍進し、地域経済に貢献したい」などの声が上がリ、高まる意気込みに会場は熱気であふれていました。

七十七銀行、東北大学、東京証券取引所等とも連携しながら、地域を挙げて認定企業の挑戦をサポートし、地域経済の成長につなげていきます。

今回認定した企業

株式会社ゼンシン、トーワ電機株式会社、トライポッドワークス株式会社、株式会社ビック・ママ、ポールウェーブ株式会社、株式会社manaby、株式会社ワイヤードビーンズ、株式会社ワンテール